

# 琉球大学学術リポジトリ

[短報] タイ国から導入したバツタタマゴヤドリバチが南大東島で定着す

メタデータ	言語: 出版者: 沖縄農業研究会 公開日: 2009-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 高良, 鉄夫, 東, 清二 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002015319">http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002015319</a>

## —短報—

高良鉄夫・東 清二：タイ国から導入したバッタタマゴヤドリバチが南大東島で定着す

農林省指令那植 第414号（禁止品輸入許可書）によりタイ国からバッタタマゴヤドリバチ *Scelio hieroglyphii* Timberlake (Scelionidae) の寄生するバッタ卵を輸入すべく、FAOの研究者をしておられた九州大学名教授安松京三博士に依頼していたところ、1974年6月13日タイ国の Division of Entomology and Zoology, Dept. of Agriculture, Ministry of Agriculture and Co-operatives から Dr. T. Wongsiri, Dr. S. Chaimongkol, Mr. M. Rumakom 方が採集されたバッタ卵1000個が届いた。天敵は6月14日から羽化し始め、6月28日までに184頭が羽化したので、沖縄産バッタ卵に産卵させ、それから羽化した195頭を同年7月21日に69頭、7月28日に124頭を南

大東島え旅客機で運び4地点に放飼した。同島では、1971年度来トノサマバッタ *Locusta migratoria* Linne の異常発生があり、これによるサトウキビの被害が相当な量になっていた。放飼結果について1974年11月21～24日に調査したところ、放飼地点周辺では30～37%のトノサマバッタ卵に寄生がみられ、放飼地点から500mで20%前後、1000mで8～19%、3000m地点（もっとも遠い地点）では3～7%の寄生がみられ、各地の圃場では活動中の天敵成虫が多数見られた。同島には他の *Scelio* sp. が分布するが、トノサマバッタの卵には寄生しないところから今回の天敵導入を試みたわけである。導入後わずか4か月で島の全地域に分散し、寄生率を高めつつあることは定着したことを示すものと考えられる。今後の本虫の活躍を期待するとともに本虫導入に御協力下さった安松京三博士、上記のタイ国の方がたに対し深甚なる謝意を表したい。